

年間のゴールの姿

主体性をもち協働的に学ぶことで、不足なく表現することができる。

1 授業づくり

(1) 現状と課題 (R)

児童生徒の課題	現状と要因・根拠となるデータ
問われていることを正しく捉え、表現する力が弱い。	[現状と要因] ○「ひらめきカード」(本時の学習につながる教科用語や既習事項)を用いて考えることが定着し、既習を活かして考えを書きまとめることができる児童が増えた。 △考えは書けるようになってきたが、問われていることや条件に正対して不足なく表現できる児童はまだ少ない。 →児童に表現させたい内容と本時のねらいの整合性がとれていない。 [根拠となるデータ] ・後期 成果検証「自分の考えを書き切ることができる。」(78.3%) ・R6 県評価問題 国語1(3)7.7% 算数4(2)7.7% ・児童アンケート「問われたことについて考えや説明を正しく書くことができる。」(86.2%)

(2) 計画と実行 (P・D)

具体的取組	評価項目	評価
・児童に書かせたい「ねらいに合った内容:何を用いてどのように表現しているか」を明確にもつ。 ・「ひらめきカード」を用いて、既習や本時につながる教科用語を確かめる。 ・交流相手や表現方法等、自己選択の機会を取り入れる。	・ノート検証(成果)【授業評価表を作成した単元のノート】 「考えを教科用語や図・式・言葉、資料などを用いて書いている。」 80% ・授業評価表(実施)『ひらめきカード』を使って既習を児童と共有した。」 100% 「自己選択の機会を取り入れた。」 100% ・参観シート「考えを不足なく書きまとめることができる。」 80% ・診断テスト「問われていることを正確に表現することができる。」 80% ・児童アンケート「問われたことについて教科用語やこれまでの学習で学んだことを使って書いている。」 90%	

(3) 検証と改善 (C・A)

月	評価方法(誰が、いつ)	結果	取組の成果○・課題▲
4	□児童アンケート(検証:4週)		
5	□ノート検証(学担:3週) □授業評価表(学担:3週) □参観シート(研究授業:4週) □診断テスト(検証:3週)		
6	□ノート検証(学担:3週) □授業評価表(学担:3週) □参観シート(研究授業:4週) □診断テスト(検証:3週)		
7	□ノート検証(学担:2週) □授業評価表(学担:3週) □参観シート(研究授業:2週) □診断テスト(検証:3週) □児童アンケート(検証:3週)		

取組の成果○・課題▲

2 基盤づくり

目標	具体的取組	評価
豊かな思考・判断の基盤となる語彙力や読解力を高める。	・朝学習は隔週で漢字と計算練習を行う。 ・音読(ハキハキ・スラスラ・正しく読む)の仕方を授業で確かめ、家庭学習でも取り組ませる。 ・週末読書や学習関連本の並行読書を通して、読書に親しませる。	